

かわさき区の宝物シート

宝物No.
14-1

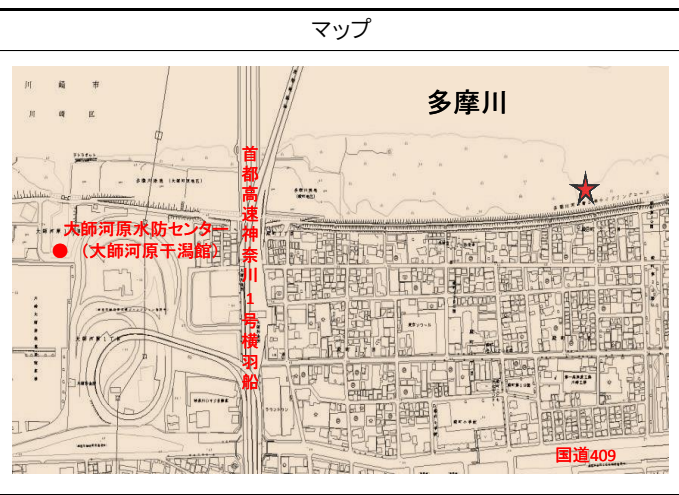
たまがわ(かこうひがた・さくらなみき) 多摩川(河口干潟・桜並木)



エリア	大師地区	シーズン	春
	殿町	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区殿町付近
問い合わせ	川崎市建設緑政局緑政部多摩川施策推進課
TEL	044-200-2268
FAX	044-200-3979
E-mail	53tamasu@city.kawasaki.jp
URL	
交通	京急大師線小島新田駅より徒歩約10分



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。
承認番号(川崎市指令ま計第159号)

基礎情報

- 多摩川は、東京湾にそそぐ総延長138kmの一級河川。河口部に広がる「殿町干潟」とヨシ原は臨海部で自然が残る数少ない場所。動物や植物などの生育・育成地として特に保全する必要がある区域として、「多摩川河川環境管理計画(国土交通省改訂)」において、生態系保持空間に位置付けられている。また、平成13年(2001年)に策定された「多摩川水系河川整備計画」にも定められている。平成16年(2004)2月、絶滅危惧種とされているアサクサノリが確認され、その後も河口域の豊かな自然環境が保たれている。
- 大師橋から下流、川崎側の堤防沿いの桜並木は、春には大勢の花見客で賑わう。大師橋やや下流からキングスカイフロント(旧いすゞ自動車工場跡地)にさしかかるあたりまで700~800m続く。地元ロータリークラブにより植樹され、地元殿町の町内会によって守り育てられてきた。

由来・エピソード

- かつて多摩川は、大雨の度に川が氾濫し、古くから「暴れ川」として知られていた。天正17~18年(1589~90)に続いた大洪水で川崎多摩区内の流路が北遷し、現在の位置となった。多摩川に架けられる橋は、洪水で頻りに押し流され、元禄から明治の初め頃まで、人々は渡し賃を払って舟で川を渡っていた。記録に残るだけでも約40の渡し場があったという。
- 江戸幕府の代官となった田中休愚は、現在の旭町から大師河原付近までの堤防改修工事も手掛け、現在の多摩川下流の堤防の基礎がつけられた。こうした休愚の功績は全国の治水工事にも大きな影響を与えたといわれている。
- 殿町干潟の辺りには豊富な餌があるため、多くの水鳥や渡り鳥が飛来し、神奈川県内でも数少ない野鳥観察のスポットとして知られる。また、東京湾沿岸の三番瀬や盤州干潟などとともに『東京湾の干潟・浅瀬』として、平成14年(2002)に発表された「日本重要湿地500」(環境省)に選定されている。かつて東京湾では奥部を囲むように干潟が広がっていたが埋立事業などによって約8分の1に減少。大師橋から下流約2kmにみられる殿町干潟も約0.45km²と、わずかに残る貴重な自然空間となった。現在では、絶滅危惧種のトビハゼやヤマトオサガニ、アシハラガニ、クロベンケイガニなど、多様な生物の生育が確認されていることに加えて、絶滅危惧種のアサクサノリの生育、東京湾から遡上する多くのアユなど話題を集めている。

補足・その他

- 大師河原1丁目には、多摩川河口域の自然環境や多摩川の歴史・文化、洪水等の防災情報を発信している「大師河原水防センター(愛称:大師河原干潟館)」があり、公共的団体と川崎市が協働で管理・運営し、自然観察会など環境学習への支援を行っている。
開催日など詳細→大師河原干潟館URL <http://www.tamagawahigata.net/>

関連シート

- (5-1)六郷の渡し・明治天皇の碑
- (14-2)水神社
- (14-3)法榮寺
- (14-6)多摩川スカイブリッジ
- (32-2)田中休愚